

機関名: (地独)北海道立総合研究機構水産研究本部

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: (地独)青森県産業技術センター水産総合研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名: 秋田県水産振興センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・9～12月のハタハタ漁獲量(速報値)は沿岸漁479トン(過去5年平均比94%)、沖合漁282トン(同88%)、合計761トン(同92%)であった。 ・沿岸漁で全県漁獲量が初めて1トンを超えたのは11月27日で、この10年で最も早かった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 山形県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・スルメイカが記録的大不漁であった。船凍いか釣漁業では、10月は203.9トンで過去5年平均比(以下年平均比)85%、11月は30.5トンで年平均比11%、12月は133.4トンで年平均比40%であった。いか一本釣漁業(小型いか釣)も同様で、10月は66.5トン(年平均比726%)と好調であったが、11月は6.2トン(99%)、12月は32.9トン(49%)と失速した。 ・底びき網漁業によるホッケ漁獲量が好調で、10月54.2トン(2,322%)、11月22.3トン(1,845%)、12月9.1トン(1,320%)と、いずれも年平均を大きく上回った。またスルメイカ漁獲量も多く、10月は3.3トン(102%)、11月は5.0トン(164%)、12月はさらに増え13.9トン(408%)となった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 新潟県水産海洋研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・ヒラマサが好漁。佐渡両津湾の大型定置網では、10～12月の漁獲量が42トンで、10か年同期比14倍。1～2kg台が主体で、同期間の漁獲量が40トンを超えるのは1997年以来。 ・佐渡でキハダが好漁。両津湾の大型定置網では、10～12月の漁獲量が9.8トンで、10か年同期比18倍。市場販売時の体重は2.1～2.2kgが主体であった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 富山県農林水産総合技術センター水産研究所

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・サケ来遊数が平成で最低値を示した。 R1: 21,162尾 H1～30平均: 98,678尾 ・キハダマグロの漁獲量が多く、氷見市場で3.5トン(H21～30年平均の約10倍)であった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 石川県水産総合センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・11～12月のズワイガニ漁獲量は、雄ガニが121トン(過去5年平均の90%)、雌ガニが83トン(過去5年平均の58%)と低調となった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 福井県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・12月の定置網によるブリ類漁獲量は478tであり、平成(2009年～2018年平均)の95tを大きく上回った(年平均比503%)。銘柄別では、ツバス345t(年平均比575%)、ハマチ38t(同292%)、ワラサ44t(同1467%)、ブリ52t(同274%)であった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 京都府農林水産技術センター海洋センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	特になし	・12/17 定置網でダイオウイカの混獲あり。(外套背長:164cm)	特になし	特になし

機関名: 兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・沿岸いか釣りによるソデイカの10月、11月の漁獲量は12.7トンと5.3トンでそれぞれ、直近5か年平均(不漁であった2015年をのぞく2013～2018年)のそれぞれ35.3%、21.5%であった。R元年度漁期の12月末までの但馬全体での漁獲量(速報値)は合計42トン(前年比27.6%)と過去10年で3番目に低かった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産試験場

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・秋季におけるケンサキイカの漁獲量(19tイカ釣りと沖合底曳を除く)が大きく減少、10月は6kg、11月は10kgを示し、両月ともに過去5年比1%以下であった。	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県栽培漁業センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・ブドウイカ(ケンサキイカの季節型)が不漁。また、台風等の影響もありソデイカの来遊が不調。	特になし	特になし	特になし

機関名: 鳥取県水産技術センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	・ケンサキイカ不漁の継続 10～12月の漁獲量は17トン、前年同期の4.5%、平成(過去5か年平均)10%に減少、各漁法ともに不漁が継続している。 ・隠岐海区の中型まき網の不漁 10～12月の漁獲量は約8千トン、平成の約40%に減少、サバ類、マアジ、マイワシとも平成を大きく割り込む。	特になし	特になし	特になし

機関名: 山口県水産研究センター

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他(水産利用加工、水産経済、災害等)
2020年 10月～12月	【ケンサキイカの不漁】 ・2019年は、秋のブドウイカ型の来遊が極端に少なく、漁獲量は254トンと前年の29%、平成(5か年)の30%となり歴史的な不漁となった。 ※漁獲量は推定値	特になし	特になし	特になし